

○エゾナニワズ (武田久吉) Hisayoshi TAKEDA: On the vernacular name of *Daphne kamtschatica* Maxim. var. *yezoensis* Ohwi

牧野日本植物図鑑の昭和 30 年 12 月 (1955) の増補 p. 1144 に登載されたナニワズの名義の説明を見ると、「ナニワズはオニシバリに対する信州方言で、北海道に於て信州人が本植物をかく呼んだのに初まると言う。」とある。そしてまた「他の和名は一見ナツボウズ即ちオニシバリに似て北海道に産する故に名づけた」とあるのは、ナニワズの題名の下に、「一名エゾナツボウズ、エゾオニシバリ」とあるその説明である。これで見ると、これ等二つの異名は、この際始めてつけられたもののようである。

ところが本書発行の 16 年前に、牧野先生から頂いた葉書に次の文面があるので、何かの参考となるかと、ここに此の植物名に関する部分を抄出することとする。

「扱 *Daphne yezoensis* を久しい間ナニハズと云っていますが、これは宮部金吾氏の通信によりますと元来は信州のある地方のオニシバリの方言で同氏の学生時代に札幌へ信州から移住して花園を開き始めた上島正という物知りがいて、その人にこの植物の名を聴いたところ、直ちにそれはナニハズというと答えましたから善い名だと思って以後これを通称としましたとありましたが、貴台には此ナニハズの名を信州の何れかで御聞きになったことはありませんでしょうかと御伺い致します。

私はダフネ、エゾエンシスに依然としてナニハズの名を用いておくと、オニシバリの信州方言と重複しますから何か別に新知名をつけてくれと宮部氏へ申し送ったら、もし新名が入用だと思えば何かつけたらよからうと言われたから、私はこれをエゾナニハズとしました。このナニハズの語原を御承知なれば御教示を願います。」

葉書の日付けは「昭和 20 年 11 月 22 日」で、投函は 24 日、受信と返信の日付は 25 日であった。牧野先生のこの新名が何かの拍子で採用されずに、同書の改訂版にも、依然旧名ナニワズで掲出されているのは遺憾なことである。

これについて思い起すことは、トドマツの名は元来オオシラビソの青森方言であるのだが、北海道に渡った青森県人が、類似の樹木を見て同一と考え、同名を以って呼んだが為に、北海道産のものがトドマツと思われてしまい、青森にトドマツが生ずるという報告に驚き、現地に臨んで調査したある森林植物学者が、別種なることを認めた結果、これは青森でいうトドマツだという意味でアオモリトドマツなる新名を与えたのは、今から見れば滑稽千万である。それ故本来ならば、北海道のは、エゾトドマツとでも呼ぶべきもので、トドマツの本家は本州にあると知るべきである。本州では、この木にトドマツ以外 3—4 の方言（ブサマツ、ゼンジョウマツ、オオリュウセン等）があるから、オオシラビソの名こそ正名として用いられるべきであろうと考える。アオモリトドマツの名が長いので、略してアオトドと呼ぶ人も時々耳にするが、これは愚の骨頂である。

(千代田区 [redacted])